

水辺の植物

堤防のまわりの植物

水ぎわにはヒメガマ、マコモ、ヨシなどが生えています。根が水底の土にあって葉や茎が空中にのびているものを抽水植物ちゆうすいといいます。みな背の高くなる草で、ヨシは水ぎわから堤防の斜面にもよく生えていますが、斜面に多いのはオギです。オギはススキに似ていますが土の湿ったところが好きです。乾いたところにはススキが生えます。

抽水植物（水辺の植物）



ヒメガマ



マコモ



ヨシ（穂）



オギ群落の間のセイトカアワダチソウ



オギ群落



ススキ群落



群生するキクイモ

堤防に人手が入ると群落ぐんらくの様子は変わります。外来の帰化植物が増えます。オギの間にはよくセイトカアワダチソウが入り込んでいます。秋にはオギの銀白色の穂ほとセイトカアワダチソウの黄色い穂が交じって見られます。オオオナモミ、オオブタクサ、クワイモ、アレチウリ、セイバンモロコシなども近年堤防やそのまわりに増えた外来の草です。

水辺や水の中の植物

水の中に生える草を水草（水生植物）といいます。このうちヒシやトチカガミのように根を水底に下ろして葉を水面に浮かべるものを浮葉植物うきようといい、エビモ、ヤナギモ、オオカナダモのように、全体が水中にあるものを沈水植物ちんすいといいます。水草は、水の汚れや河川の改修工事など環境の悪化により、近ごろ急に減少しました。市内では高野川や桑納川、桑納川の支流などで見られます。



オオイシソウ（紅藻類）

千葉県的重要保護植物で、長い黒髪のような形で流れにゆらいでいます。

桑納川の上流部にはリュウノヒゲモが見られます。千葉県内には他にこのようにたくさん生えているところはなく、大切なものです。川に生える紅藻類こうそうるいのオオイシソウも珍しいものです。

一方、外来のナガエツルノゲイトウが桑納川に増えつつあります。将来大繁殖するおそれがあり、やっかいな草といえるでしょう。



ササバモ〔ヒルムシロ科〕

沈水植物。水が少ないと葉が水面に出ます。



リュウノヒゲモ〔ヒルムシロ科〕

沈水植物。千葉県の重要保護植物です。



サジオモダカ

桑納川の浅い泥の上に生育しています。千葉県の重要保護植物です。